

宮本茶園 宮本透

明けましておめでとうございます 2025年もよろしくお願ひいたします

2024年は1月に東アジア反日武装戦線の桐島聡さんが重体で病院に搬送されたというニュースが流れ、12月には韓国のユンソンニョル大統領が出した戒厳令に対し100万人の労働者市民が決起してクーデターを粉砕する闘いが報道されました。1958年生まれの私は高校・大学時代「しらけ世代」と言われ「無気力・無感動・無関心」の三無主義生活を送りました。私が学大で過ごしたモラトリアムの時間、1970年代学生運動・1980年光州蜂起になぜ若者が立ち上がり闘ったのか考えた事は社会の理不尽と対決する人生を歩むきっかけとなりました。

藤沢で生まれ育った私は家庭を持っていた時代江ノ電沿線に居を構えていましたが、桐島さんが潜伏生活を送っていた一軒家は自宅から数百mしか離れていなかったのです！秋の彼岸に故郷を訪ねて聖地巡礼、上岩花卉畑で育てた生花を彼の終の棲家に手向けました。高校生の頃から通った駅前の喫茶店に立ち寄り、コーヒーを飲みながらおしゃべりすると「内田さんはうちの常連さんだったのよ、とにかく陽気な人だった」と彼の思い出話を聞く事ができました。死の3日前まで「内田洋」のペンネームで闘い抜いた桐島さんの哀しい49年間に合掌。

新聞・TVを見ない私の情報源はPC・スマホですが、ネットニュースやYouTube動画で配信される韓国情勢に感動しました。銃で武装し国会内に入り込んだ戒厳軍兵士に対し、銃口を向けられてもひるまず抗議する人々の闘いはわずか6時間で戒厳令を粉砕したのです。「光州5・18」・「タクシー運転手」・「1987」、韓国映画に描かれる民主化闘争の歴史は現実なのだ改めて認識する事ができました。8兆円の軍事費に空母を保有するに至った日本は中国侵略戦争に突き進んでいます、今こそ憲法9条の意味を私たちは深く考えるべきだと思います。

・秋の茶仕事

昨夏は7月に熱中症を患ってから炎天下での野良仕事を控えていました。8月下旬は雨続きで茶園管理作業が遅れ、徒長枝処理が終わりません。夏整枝後に伸びた徒長枝は旧盆過ぎに1人用バリカンで刈ったのですが、現在は体力が衰え2人用刈り機で作業しています。しかしながら赤字経営の宮本茶園は整枝・摘採作業同様のアルバイト代は払えず、ボランティアに頼っています。無償で茶園管理作業を担ってくださるボランティアは貴重な存在で、9月7日は朝から上岩茶園での作業をお願いしました(写真①)。この日の天候は厳しい残暑でしたが湿度が低く、作業効率が上がったので昼食後も徒長枝処理を続けました。午後になると手足が痙攣したのですが、どうにか予定した茶園の作業を終わらせて15時頃ボランティアと別れました。軽トラを運転して道具を片付けようとしたのですが熱中症の痙攣は治まらずハンドルが握れません。日陰で安静にすれば症状が和らぐかもしれないと考え、車を降りて木陰に入ったのですが手足は硬直し嘔吐症状まで出てしまいました。このまま意識が無くなると命にかかわる深刻な事態だと認識し、近所に住む高村師へ携帯電話で助けを求め上野原市立病院に救急搬送されました。病院では医師から「腎機能が著しく低下しているので、夜になっても尿が出なければ入院ですよ」と言われ、点滴を受けました。ずっと付き添ってくださる高村師は「宮本さんは手広くやりすぎ、年齢相応にできる事とできない事を整理しないとイケない」と諭します。茶・雑穀・花卉と同時並行で栽培してきましたが、2回目の熱中症は一人で8反5畝を耕作する事は不可能だと認めざるを得ませんでした。

残暑が和らぐと相模原市役所から連絡があり、10月4日に環境経済局長・緑区長を含む幹部職員の県茶品評会入賞茶園視察が行われました(写真②)。相模原市内足柄茶生産農家の受賞は久しぶりで、市役所幹部の皆さんは茶草場農法で栽培する大河原茶園・宮本茶園の入賞を祝福してくださいました。入賞祝いに浸る間もなく8日は県農業技術センターの茶園巡回指導と藤野茶業部会、普及員の先生とJA本店職員同行で部員の全茶園を視察した後に第57回神奈川県茶園共進会出品茶園選出を話し合いました。2021年に中切り更新した上岩茶園が選ばれ、2020年度共進会2等賞の大河原副部長に秋整枝作業を指導していただき出品準備に取り組みました(写真③)。



①



②



③

・佐野川茶営業活動

10月に開催された藤野茶業部会では佐野川茶販売計画を話し合いました。私は上岩茶園で収穫した荒茶を全量佐野川茶製品に加工にするつもりでしたが、前年までの販売量を踏まえると売れは難しいのではないかと議論がなされました。会議後茶来末社長に相談すると「宮本さんはどうして売る努力をしないのですか！がっかりしました」ととがめられ、この指摘は胸に突き刺さりました。自分の人生を振り返ると勉強でも趣味でもやり抜く努力をせずに挫折して、我慢できずに逃げ出す事ばかりでした。望んでなった茶農家、健康寿命が尽きるまで茶園管理作業と併せ営業活動に全力で取り組む不退転の決意を持ちました。

ほうじ茶製品を復活させて秋のイベント藤野ふる里まつりとシュタイナー学園のまるまるマルシェに出店しました(写真④⑤)。佐野川茶製品は試飲された多くのお客様から「今年のお茶はとても美味しいわ」と誉めていただき、相模原ブランド構築の手ごたえを感じました。10月31日は横浜で開催されたかながわ農林水産品マッチング商談会に参加し、様々な食品流通企業のバイヤーに佐野川茶製品を紹介しました(写真⑥)。残念ながら契約に至った企業はありませんでしたが、商談会終了後の懇親会では県内各地で活躍している若手農家と交流する事ができました。皆さん経営規模が大きく法人組織で作物栽培・加工に取り組み、横のつながりを大切にしているのが印象に残りました。後日談ですが相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会実行委員会の忘年会で若手メンバーと農業談義をしていると、名刺をいただいた野菜農家は友人だと言われ驚きました。こうした佐野川茶がもたらす縁、紡いで行けば産業としての茶栽培は絶対に続けられると確信しています。



④



⑤



⑥

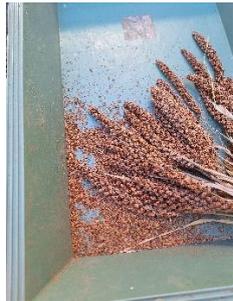
・雑穀栽培終了

2023年雑穀街道普及会解散で藤野の雑穀栽培講習会は終了しましたが、上岩雑穀畑は継続するつもりでした。茶園管理作業の合間に元肥施肥・耕起・播種・間引き・追肥・除草と作業をこなし、8月には栽培講習会参加者に手伝っていただき防雀ネット張りをしました。しかしながらキビ収穫中に熱中症で倒れて雑穀畑の野良仕事を中断、秋の長雨で未収穫の雑穀の穂はカビが生えて真っ白になりました。茶園の秋整枝作業が終わった11月中旬、収穫できなかった雑穀を刈り払い機で片付けて燃やしました(写真⑦)。折しもナマステ156号植物と人々の博物館 Vol.37で西村理事が佐野川での雑穀栽培終了を伝えてくれましたが、パンパンと音を立てて燃える穂を眺めながら無念の思いが込み上げました。野良仕事の合間には収穫できた雑穀の種取りをしました(写真⑧)。いつの日か雑穀栽培講習会を再開するX君に引き継げるように2024年産種子は自宅冷蔵庫で大切に保管します。

1984年自然文化誌研究会冒険探検部活動で取り組んだ学大農場の雑穀栽培、後輩部員が櫛を掘った手製の竝臼で収穫したキビを精白し仲間と餅つきしたのは忘れられない思い出です。ちーむゴエモン年末恒例の餅つき、上岩雑穀畑で収穫した雑穀を餅につき仲間と味わう事は野良仕事の励みでした。蒸し上がったキビは高橋師と高村師がついて黄色い餅になり、参加者に振る舞われました(写真⑨⑩)。多くの方からねぎらいの言葉をかけていただき、9年間続けた藤野の雑穀栽培最後の思い出が出来ました。



⑦



⑧



⑨



⑩

※雑穀見本園で収穫した種子希望の方は宮本透まで

(携帯: 090-2205-8476 e-mail: kwangjuu1980@yahoo.co.jp)